

「なくてはならぬ人となれ」
.....黒田如水
与えられた仕事は興味を持って、自分なりの工夫をこらそう。その仕事にかけては、エキスパートになれ、代用品ではすませない人となれ。



第 1 回大会

社内交流 スポーツ競技大会 秋空に競う

激戦繰広げる 8 チーム

秋空のもと、熱戦 7 試合が行われた



第 1 回「社内交流スポーツ競技大会」が、9月22日抜けるように晴れあがった秋空のもと、福岡市内の九州大学箱崎グラウンドで開幕、熱戦を繰り広げた。
あいつぐ台風の本土来襲に、大会はいくたびか順延され、22日も前日の天気予報では心配されたが、全選手、大会関係者の闘志と熱意が厚い雲を吹きとばしてしまっ
各事業所の期待を担った〔大牟田〕〔三池・川内〕〔唐津〕〔新相浦・大村〕〔苅田〕〔玄海〕

〔本店〕〔小倉・大分〕の選抜 8 チーム、120名の選手が一堂に会した。日頃の作業服とヘルメットを、トレーニング服と野球帽に急きょ変更しての参加である。年齢区分による選出のため、所長クラスから新入社員まで幅広い層の顔が見え、チームワークも大きな戦力が予想され、早朝から多くの応援団がかけつけ、いやがうえにも大会気分を盛りあげた。
(2・3面関係記事)

玄海 二電気関係二 使用前官庁検査終る

建設も終盤を迎えた玄海発電所では、電気関係の使用前官庁検査が9月10日から12日までの、3日間の工程で実施された。
検査対象となった試験の内容は、220KV、66KV、6.9KV電源系統耐圧試験、開閉所機器の機能試験および所内インターロック警報試験である。このうち、当社施工分の2次系高圧ケーブル、メタルクラッド、バスダクト、変圧器、屋内開閉所機器は、なんらトラブルなく無事試験を終了した。
47年12月、寒風吹き荒ぶ日に徹夜で実施したベース設定工事、48年9

月から49年1月までに集中的に入荷した機器を工程に乗せるための作業、これら難行を経て、このたび官庁検査を無事終え、認可がおりることになった。(玄海 秀田 豊)

原子力勉強会終る 今後必要に応じて開催

〔本店=9月15日〕第7回原子力勉強会を、さる9月14日本店会議室で行った。

据付が完了した各種機器の性能試験や総合試運転が繰返されている玄海発電所では、やがて燃料装荷が行われ、来年7月には運転開始が予定されている。
運開後、保修体制に入る当社は、この未知の分野である保修業務に対処して、放射線管理者をはじめ各種技術者の養成に力を入れる一方、保修体制の円滑な運用をはかるため、作業内容、放射線管理、健康管理、教育訓練など、原子力に関する勉強

および協議を組合と重ねてきた。
今回は、北島技術部長、江島原子力課長、財部主任、玄海建設所から山崎課長、月田主任、そして組合からは松尾孟本部長をはじめ秦勝正、村上宗章、田中光、瓜生昭、林孝充、小崎陽、石原信一、古林誠也の各氏が出席した。放射線管理に関する会社の考え方の説明があり、それに対する組合の質問、意見が続いた。間近に迫った原子力保修体制をひかえて、関心は高く活発な論議が交わされた。
なお、一連の原子力勉強会は今回で終了し、今後必要に応じて開催する予定。

10/1 定期採用試験行う 足りない高卒技術者

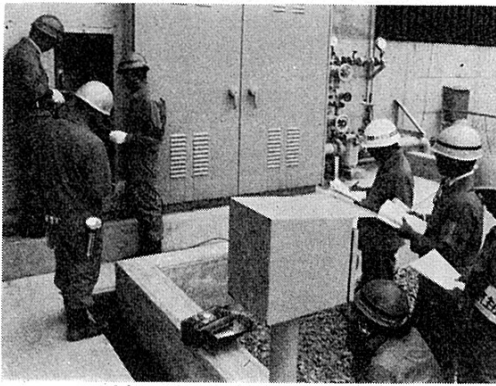
〔本店=10月1日〕10月1日、昭和50年度高校卒業予定者の採用試験を、本店会議室で行った。

受験生は、機械、電気あわせて20数名。午前中、作文と筆記試験があり、午後から面接試験に移った。
ここ数年、高校新卒者の確保には各企業とも積極的な姿勢を示しており、求人難時代を迎えている。この

ような背景のなかで、当社は、6月から労務課を中心に各事業所担当者による学校訪問など、活発な求人活動を続けてきた。
これらの効果で、従来になく広範な学校から応募があったが、今回の採用では、予定人員の充足にほど遠く、今後とも積極的に求人活動を進め、随時、採用試験を行っていく予定。



午前中の筆記試験



所内変圧器低圧側絶縁抵抗の測定

戸畑出張所を設置 工事量増大に対処

〔戸畑=9月15日〕9月1日付けで、北九州市戸畑区大字名古屋の戸畑共同火力発電所内に、戸畑出張所を設置した。
同発電所は、新日本製鉄の動力源となるもので、1・2・3号ユニットが運転、高炉ガスを燃料とし、その発電量は3基合わせて56万2,000KWに達する。当社は、これら3基の定期修理および日常保修を常時担当してきたが、今後の工事量の増大

と、これに対する体制確立のため、出張所を設けたもの。
小倉事業所の管轄にあり、田中信夫所長をはじめ久保大主任、高橋民治主任らが常駐している。
なお、出張所の設置と同時に、1号機(15万6,000KW)のボイラ、タービンの定修工事が始まった。